

事業所における自己評価結果

公表: 令和3年3月11日

事業所名: 大府市発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	2	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防もあり、共有スペースは利用するクラスを分けるなどしている。 ・新型コロナウイルス対策として三密を防ぐように最大限スペースを利用しているが、狭く感じることもある。 ・親子で毎日通うクラスは、新型コロナウイルス対策をとると、狭いと感ずることもある。換気をしっかりし、広くとれる工夫をしていく必要がある。
②	職員の配置数は適切である	14		<ul style="list-style-type: none"> ・通常は7～8人につき3名、園庭などで遊ぶときは、危険を考慮して、その都度配置を検討している。 ・基準より多い配置になっている。
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋はパーティションなどで仕切って、集中できる環境を設定し、活動内容によって変化させている。 ・パーティションやカード等を使って子どもが分かって動くことができるような配置を行っている。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12	2	<ul style="list-style-type: none"> ・空気清浄機をつけて、毎日の掃除を食後2回と療育後に行っている。 ・活動によっては狭いと感ずる場合もあるため、別の部屋を利用したり、個々の配置を工夫したりしている。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、密にならないよう合同で使用することを避けた。そのため、部屋の使用がいつものようにならず、子どもに合った場を確保できないときがあるので工夫が必要。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	14		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日療育後の振り返りや会議の中で行い、週1回会議で検討している。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートなどを活用し、次年度の検討を行っている。 ・評価表を元に、改善すべき所を実施している
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14		
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14		<ul style="list-style-type: none"> ・以前実施し、改善に繋げている。次回は来年度実施予定。
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みと冬休みを利用して、研修を行っている。 ・全体に向けたものだけでなく、経過や業務内容に合わせて年に数回参加できるとよい。
⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回アセスメントシートや専門職からの視点などで分析している。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートや日々の姿の記録を活用している。 ・発達によっては、現在の項目より上の項目が必要な子が出てくるため、アセスメントシートに加筆をする必要がある。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		14	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達支援は、具体的に設定され実施されている。家族支援や地域支援については計画にはないが、個別や面談などを通して支援 ・地域支援と家族支援について、プロジェクトを組んで3年がかり(現在2年目)で検討し、2022年の実施を目指している。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の記録に、目標の達成度を毎日記入できるようになっている。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	14		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって発案からチームで立てたり、発案は個々で組み立てはチームで立てたりするなど、やり方は異なるが行っている。 ・非常勤職員の意見も、もっと取り入れていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14		・クラスの姿によって、内容や時期などを変化させている。 ・“自分で気づく”“遊びこむ”ことを大切にしているため一定期間同じ活動を続けるが、その中で発達に合わせて展開をしている
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	14		・自由遊びのときに1対1で関わったり、作業療法士の個別療育をしたりしている。 ・もう少し個別に合わせた遊びや活動の内容(配慮)があるとよい。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	2	・開始前は出勤時間が違う職員がいたり、通園バスに添乗する職員がいたりして、子どもの登園前にまとまって時間を取るのが難しかったため、前日の振り返りのときにしっかり翌日の打ち合わせも行き、開始前はそ ・お休みなどにより前日にできない場合もある。そのときは当日簡単に行うため、より連携して支援する必要がある。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14		・何が良かったのか、どういう点でどう改善していくとよいのか、日々振り返って共有し、次の日に生かしている。 ・親子クラスと単独クラスをそれぞれチームとして括り、月1回チーム会議をしている。週末にチーム会議を行う場合は、翌週の打ち合わせができないので、曜日の検討が必要。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14		・後から見返すと、何のことが分からないときもあるので、ポイントを絞って分かりやすく記入することが大切。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14		・毎日の振り返りのときに行っている。 ・未達成の項目もあるが、適宜利用者との面談をして支援内容の見直しを行っている。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	1	・通園事業ではサービス担当者会議がないことも多い。開催されたときは、子どもの姿が分かる職員が参加している。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14		・家庭児童相談室や保健センターなど、必要な関係機関と適宜連携をとっている
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14		・移行前に交流をさせてもらい、姿を見てもらった上で情報共有をしている。また、引継ぎ書類を作成し、訪問して引き継いでいる。
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14		・就学前に見学や体験などをさせてもらい、姿を見てもらっている。また、引継ぎ書類を作成し、訪問して引き継いでいる。就学後も2回訪問し、情報交換をしている。
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	3	・管理者や相談員同士の連携は行われている。 ・愛知県の施設が集まる児童発達支援職員現認研修に全員参加したり、地域の施設が集まる5市5町交流研修会などに参加したりしている。 ・複数の事業所を利用している児に対して、他事業所と連携して、姿や支援の共有が行えるとよい。
㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある	13	1	・全員で参加する機会はないが、希望があればいつでも行けるよう、保育園の施設開放や体験入園などをインフォメーションしている。また、保育園の移行支援として対象児は交流をしている。年長児は地域交流として希望者が交流している。しかし、希望がない児は経験する機会ない。
㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	14		・管理者が参画している。
㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14		・親子通園日や送迎時に伝えている。また、普段の連絡帳でもやり取りして伝えている。しかし、バス通園などで普段なかなか会えない保護者との連携は難しいと感じるときがあるので工夫していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	11	3	・親子クラスは毎日、単独クラスは週1回、親子通園日に実施している。 ・ペアレント・トレーニング等として、プログラムは組んではない。しかし、親子通園日やグループワーク・講演会・クラス懇談会などの中で取り入れている。
③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14		・入園前のオリエンテーションやクラス懇談会で伝えている。
③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同	13	1	・個別懇談を設けて話をしてしている。しかし、ガイドラインの話はしていないので、今後検討していく。
③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14		・定期的に行い、それ以外でも適宜行っている。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14		
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14		・できる限り迅速に対応できるようにしている。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信して	14		・園便りの発行をしている。また、自由遊びの様子など、子どもたちの写真を撮り、担任のコメントと共に掲示している。
③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	14		
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14		・個別に合わせた伝達方法(カード・ジェスチャー・書面に残すなど)をしている。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	2	・今年度は新型コロナウイルス対策のため開催されなかったが、おひさまの行事である夏まつりや、市が主催する福祉フェアなどを通して地域に発信している。また、その様子はFacebookに載せている。 ・日常療育で行われる小規模の行事は、地域の方を招待すると、子ども達が緊張し不安を感じる場合も多いので、子どもの負担を考えると難しい。
④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14		・不審者訓練・引き渡し訓練などを行っている。
④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	14		
④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14		
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14		・半年に1回保護者との面談を行い、対応方法の確認を行っている。献立については、毎月食材確認を保護者・担任・センター長・児童発達管理責任者・調理員が行っている。
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14		・毎日の終礼(連絡会)で報告し、共有している。また、非常勤職員も共有できるよう連絡会ノートにも記載している。更に、月1回事例を集計し分析して、事故につながらないよう職員間で意識付けを行っている
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14		・研修とまではいかないが、グループワークや伝達を行っている ・来年からより強化し、虐待防止推進会議や委員会を立ち上げ研修の機会を増やす。
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		14	・現在、やむを得ない場合は個々のケースで保護者と話をして理解を得ながら対応しているが、今年度よりプロジェクトを組んでマニュアルを作成した。来年度は様式を見直して2022年度より個別支援計画に明確に記載し、より透明性のある支援を行っていく。